

優秀賞 静岡県 堀田 咲穂 様（高校生 女性）

今、日本は超高齢社会だ。医療の技術も発達し、一人一人が長生きできるようになった。それはきっとすごく良いことなのだろう。私も良いことだと思っている。しかし、その裏で高齢者を支える若者がいる。二十歳になったら国民年金を払うことになる。だから今、高齢者が増える一方で若者は苦しんでいるのだろう。私はまだ子供だから年金のことなど人事に中学生の頃は感じていた。しかし突然年金について知る出来事があった。

私は小学校の頃から母子家庭だった。しかし、私が中学二年生の時、唯一の頼りであった母が亡くなった。私には兄弟もいない。とても孤独だった。自分は周りの人と同じような生活ができるのだろうか、高校へは行けるのだろうか、就職はできるのだろうか、何度このことを考えたか分からない。とにかく私は不安でいっぱいだった。

そして私は祖父母に引き取られた。その時年金のことなど存在すら知らなかった私に、祖父母から年金について聞く機会があった。それを聞き、もし年金の制度がなかったらと考えたらぞっとした。だからその制度があって本当に良かったと思っている。そんな年金と少しの支援金で生活し、今、普通の高校生として生活できている。

私は今まで相当祖父母に迷惑をかけてきたから早く就職して祖父母を楽にしてあげたいと考えていたが、祖父母は「行きたい大学へ行ってしっかり自分のやりたい仕事を見つけたらいいよ」と言ってくれた。そして今、大学進学を考えている。それでもやっぱり罪悪感はある。祖父母ももうそんなに若くない。

だから、今できることは限られているけど私なりに親孝行もしながら勉強も真面目に取り組んで、自分のやりたいことを見つけスムーズに卒業し、まともな大人になるように一生懸命頑張ろうと思う。そして祖父母がもしいなくなったら私はもう自立しなければならない。そのための、たくさんの制度やしくみなど世間のことも自ら調べて分かるように頑張ろうと思う。

私が大人になったら、もちろん年金制度としっかり向き合っていくつもりだ。きつとこのことを世間の大人に言ったら、年金を払う辛さを知らない高校生が偉そうに言うなと言われてしまうかもしれない。しかし、私のように育った人も私よりもっと辛い思いをして生きている人もこの世にはたくさんいると思う。その人たちの気持ちが分かるなんて言ったら怒られてしまうと思うが、私なら少しはその人たちの気持ちを理解できると思う。

だから、今、年金制度の辛さを知っていながらしっかり向き合っていない大人に、お金を払い続けるのは本当に大変だと思うが、向き合ってほしいと言いたい。